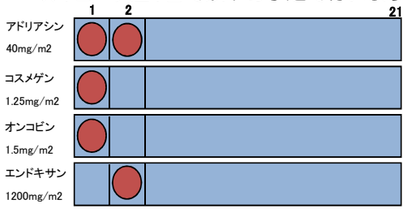
エンドキサン/オンコビン/アドリアシン/コスメゲン療法【　　】コース目を受ける患者さんへ　　【患者さん用クリニカルパス】

ＩＤ：　　患者氏名：　　様

	入院当日(治療前) 月　日	治療の期間 月　日～　月　日（　日間）	退院日(治療終了後) 月　日
目標	治療の経過が分かる	予定どおり治療が終了する	副作用への対処法を理解し実行できる
説明・指導	入院生活について説明します。 腎機能検査のため、尿をためる方法について説明します。 予測される副作用および予防法・出現時の対処方法について説明があります。薬剤師からの薬の説明があります。	点滴中、針の入っているところが痛くなったり、腫れたり、重苦しくなったら、すぐに教えて下さい。**こまめに水分補給をしてください。**	退院指導を行います(生活指導や次回外来再診日の連絡)
治療 処置 点滴	身長・体重を測定します。 	スケジュール(1日目) ① 30分 グラニセトロンとデキサート（ステロイド)という吐き気止めを行います。 ② 30分 アドリアシン（抗がん剤）を点滴します。 ③ 30分 コスメゲン（抗がん剤）を点滴します。 ④ 5分 オンコビン（抗がん剤）を点滴します。 スケジュール(2日目) ① 30分 プロイメンドという吐き気止めを行います。 ② 30分 アロキシとデカドロン（ステロイド)という吐き気止めを行います。 ③ 30分 アドリアシン（抗がん剤）を点滴します。 ④ 2時間 エンドキサン（抗がん剤）を点滴します。 ☆点滴はヴィーンDという水分補給のための補液を2日目の抗がん剤の投与前から開始します。その後、5日目の24:00まで継続的に点滴による水分補給を行っていきます。吐き気がひどいときはさらに吐き気止めを追加します。 ☆エンドキサンの副作用予防（膀胱炎対策）としてウロミテキサンというお薬を1日3回(2日目)静注します。 ☆アドリアシン投与後～1日は、尿が赤くなることがありますが、薬の色ですので心配はいりません。☆オンコビンの投与量が増えると神経障害の出現頻度が高くなります。治療中に指先の刺すような痛みがあるときは、お知らせください。	抗がん剤の主な副作用 発症時期による症状と対処方法について、以下のものがあげられます。 【投与から１～２日後】 便秘症　→　便秘薬（緩下剤）の内服 吐き気・嘔吐・食欲不振などの消化器症状　→　吐き気止めの注射 出血性膀胱炎　→　ウロミテキサンの注射 【投与から数日間経過してから】 口内炎　→　うがいや抗炎症薬の軟膏を塗布 貧血　→　輸血（頻度は稀です） 血小板減少　→　血小板輸血（頻度は稀です） 出血性膀胱炎　→　ウロミテキサンの注射 【投与から１～２週間経過してから】 神経障害→治療中止後、１～３ヶ月で改善します 白血球減少　→　G-CSF製剤（白血球を増やす薬）を注射 脱毛　→　かつらやバンダナなどを使用 味覚の変化　→　味付けの工夫、うがいの励行
内服	現在飲んでいる内服薬の確認をします。 内服薬は基本的に継続内服とします。 		症状に応じて内服薬が処方される可能性があります(吐き気止めや便秘薬など)。
検査	化学療法に必要な検査を行います。（血液検査、尿検査）	２４時間尿をためていただいて、尿量を測定して腎機能検査を行います。体調に応じて血液検査を行います。	体調に応じて血液検査をすることがあります。
食事	基礎疾患（糖尿病・高血圧など）に応じて、治療食が出ます。	食事の制限は特にありません。水分を取るように心掛けて下さい。吐き気のために食べられないときには、食事の変更ができますので相談ください。症状にあわせて食事内容を変更することがあります。	☆1コース21日で以下の予定で行います 
生活・行動	特に行動制限はありません。	特に食事や行動の制限はありません。 治療後は、白血球数が減少すると抵抗力が弱くなるため、人混みは避け、うがい・手洗いをしっかりと行い感染に注意してください。血液データに応じて食事や行動の制限がある場合があります。	
清潔	シャワー浴、または入浴ができます。		
その他	熱が出た場合や検査データに異常のある場合は、化学療法を延期することもあります。	他に気になる症状がありましたら、申し出てください。	この治療を数回繰り返します。治療の内容は変更になることがあります。

注）予定は現時点で考えられるものであり、今後検査等を進めていくにしたがって変わることがあります。

岩手医科大学附属病院
整形外科